

風にのって、羽ばたく。

[2023年・新春]



医療法人 仁木会
広報誌 Vol.34

Take Free.
ご自由にお持ちください

そよ風のてがみ

特集

アウルサテライト開所

コリブリ開設

二〇二三年巻頭言

部署メッセージ

新入職員紹介

かんたんレシピ

「鮭のアーモンド焼き」



● 外来診療のご案内

- 受付時間／8:30～11:30、13:00～16:30
※初めての方は待ち時間解消のため、お電話でご予約ください。
- 診療時間／9:00～12:00、13:00～17:00
※ストレスケア外来・ストレスカウンセリングは、ご予約の上ご来院ください。
- 休 診 日／土・日・祝日
※再来急患の場合は、その限りではありません。

● 診療費のお取扱いについて

[窓口でのお取扱い時間]

- 平日／9:00～17:00
※土・日・祝日のお取扱いはありません。

● 保険証の確認について

- 外来／診察毎時 ・入院／月1回
※窓口での提示をお願いします。

[口座振替]

ご指定の口座より自動振替による、入院費・日用品代のお支払いができるサービスを行っております。定期的に来院するのが大変な方、遠方からお越しの方等、大変便利なサービスとなっておりますので、ぜひご利用ください。

[クレジット]

入院費・外来診療料・カウンセリング料のお支払いが可能です。一括払いのみとなります。分割払い・リボ払いはお取扱いしておりません。



医療法人 仁木会は
ロアッソ熊本を
応援しています。



再来予約専用

TEL.090-1779-5326
TEL.096-383-7810

電話予約受付時間
(平日のみ)
8:30～12:00
13:00～17:00

● お問い合わせについて

初めての方…………… TEL.096-384-3111
一般外来…………… TEL.096-383-7810
(診察予約・変更・キャンセル) TEL.090-1779-5326
ストレスケア外来・カウンセリング…… TEL.096-383-4679
(診察予約・変更・キャンセル)
デイケアに関すること…………… TEL.096-384-3151

＜医療機関・地域包括支援センター・介護施設のご担当者様へ＞
各種お問合せは地域連携室で対応させていただきます。

基本理念

医療法人仁木会は、
患者様の心を癒し、社会で安心して生活が出来るように手助けをします。
患者様、ご家族、地域の方々に寄り添った、
家庭的で心の通った医療とサービスを提供します。



医療法人 仁木会
ニキ ハーディーホスピタル
[精神科・神経科・神経内科]
〒862-0920
熊本市東区月出4丁目6-100
TEL.096-384-3111



医療法人 仁木会
訪問看護ステーションクレイン
〒862-0920
熊本市東区月出4丁目4番74号
TEL.096-234-7738
FAX.096-234-7746



医療法人 仁木会
相談支援事業所 アウル
〒862-0920
熊本市東区月出4丁目4番74号
TEL.096-234-7756
FAX.096-234-7746



医療法人 仁木会
訪問看護ステーションコリブリ
〒860-0834
熊本市南区江越1-10-18-102
TEL.096-234-7580



医療法人 仁木会
相談支援事業所 アウルサテライト
〒860-0834
熊本市南区江越1-10-18-102
TEL.096-234-7585

「つながる。」

文／理事長 仁木啓介

未来へ「つながる」ように

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、人々のつながりは形を変えた。ソーシャルディスタンスという言葉は、水戸黄門の印籠のように、人に強制的に距離をもたせ、人と人との肌の触れあいや、人の体温の伝わりを阻んだ。握手をする機会も無くなり、Webを通してのコミュニケーションが増えた。海外では、家族や友人とのハグにも影響を与えた。日本では、デジタル的に、距離を置か置かないか、マスクをするかしないか、又はその方法においても、国や行政が決めなければ、個人では判断が出来ない国民性である。アメリカでは、社会のルールの中で、個人の多様性と、感染対策に対する個人の意志を尊重する。

コロナの猛威が落ちて来て来たアメリカ・カリフォルニアでは、ソーシャルディスタンスの受け止め方も異なる。個人のコンフォートレベル（心地よい度合い）により、ハグを認める人、肘でお互いタッチする人、身体に触れることなく距離を保ちたい人に分けて、それぞれの心地よいレベルでつながるのである。日本の画一的なコンフォートレベルの主語は、集団であり、アメリカでは個人である。自分

の身は自分で守る。だからワクチンを受けて、マスクを外して生活する人、ワクチンをしていても、人との距離をきちんと保ちたい人、ワクチンはないから、他人との接触を控える人、個人のコンフォートレベルの内側には、多種多様な感染対策があり感染に於いては、自己責任が背景にある。

一方、日本では、集団としてのコンフォートレベルで対応してきた。当然、選択肢がないため、マスクをしない人はまるでテロリストのような扱いになってしまふ。周りがマスクを外さないから外せない、マスクを外すのが怖いとエスカレートして、感染対策としてのマスクの域を超え、人前でマスクを外すのは、まるでパンツを脱ぐようで恥ずかしいという人達も出てきた。コロナ対策として、ワクチンを行う事はとても効果がある。ワクチン証明書のために、ワクチンを受ける人、一方で、様々な事情でワクチンを受けられない人や、ワクチンに対する不安や副反応のため、躊躇する人や数回ワクチンを受けたから、もうそろそろやめようかと言う人、TVの誤った情報に流され、感染対策なしで、マスクを外す人も出てきて、集団でのコンフォートレベルが瓦解しだしている。

個人レベルでの感染対策を意識付けてこ

— つながりは、人の孤独を減らし、未来を照らす。

CONNECTION

なかった日本の政策は、経済を回すために、感染に対して無防備な人達を、国レベルで人の流れを増やし攪拌した。パンデミックを繰り返すのは当然である。個人レベルで、しっかり感染対策さえ出来れば、幾ら人流が増えても大変なことにはならない。この状態では、新型コロナウイルスが弱毒化してくるのを、神頼みするしかない状況に陥っている。もしも、強毒性の変異種が発生したら、又は、別のウイルスのパンデミックが起こったとき、個人レベルでの感染対策への意識付けなしでは、被害は深刻化する。

つまり、個人レベルでしっかりと、感染対策が出来て、一緒にいる相手のコンフォートレベルにあつた対応をすれば、感染被害は抑えられる。医療的な問題は解決しないまま、新型コロナウイルス感染症を4月には、インフルエenzaレベルの対応にしようという話がある。薬価のみで、経口薬のラゲブリオは5日間の投与で、約9万5千円弱かかり、注射液のレムデシビルは5日間の点滴で約38万円である。これらの3割負担であつてもどの位の人が治療を受けられるだろうか。国産初の治療薬が承認されたが、効果はまだ未知である。

新型コロナウイルス感染症は、志村けんを初めとする、多くの知的財産を奪った。「だいじょうぶだ〜」という志村けんのギャグは、多くの人に元気と安心を与え、人々の心をつなぎとめてくれていたように思う。人と人がつながっていくと、それは未来につながる。つながりは、人の孤独を減らし、未来を照らすため、多くの何かを失いトラウマティックになった人の心を癒してくれる。

理事長 仁木啓介





令和4年3月に
「訪問看護ステーションコリブリ」を
開設しました。

医療的ケア児・者を中心に訪問看護を行っています。人工呼吸器や喀痰吸引、栄養注入など在宅生活に欠かすことのできない専門的ケアはもちろん、安心して笑顔で生活できるよう子育て支援やご家族への

サポートを行っています。

開設・運営にあたって、顧問医として間部裕代先生(間部病院)・協力医として小篠史郎先生(熊本大学病院)にご指導いただいています。少人数のステーションですが、主治医の先生および看護師・連携室の方々、訪問看護ステーションや支援者のみなさまと連携していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

医療的ケア児(者)の生活を

サポートするために

相談支援事業所アウルでの相談支援業務を通して、これまでに多くの医療的ケア児・者とそのご家族、支援者の方々と関わらせていただいています。ケアを必要とする方々へのサービス提供体制の強化が必要と考え、当法人として2つ目の訪問看護ステーションの開設、ならびに相談支援事業所のサテライトオフィスの開所に至りました。開設にあたって、多くの方々よりご助力を賜り、事業計画立案からごく短期間で開業にこぎつけることができました。事業開始にあたって、主治医の先生、地域連携室のご担当者様に多大なご配慮を賜り、心より御礼申し上げます。同時に、当事者ご家族の声をお聞かせいただき、利用者本位のサービス提供を実践しなければと決意を新たにいたしました。

2021年9月に医療的ケア児支援法が施行され、医療的ケアを必要とされる方への支援が広がっています。熊本県・熊本市のご担当者様や熊本県医療的ケア児支援センター(熊本大学病院小児在宅医療支援センター)、さまざまな事業所と関わるが増え、大変僥越ながら、医療的ケア児等コーディネーター養成研修に関わらせていただいています。医療的ケア児・者の地域包括ケアの実現のために、サービス提供体制の強化、多くの当事者やご家族、支援者の方々にご信頼いただけるよう関係構築に努めてまいります。

本年以降、医療的ケア児支援、ご家族支援等の新たなプロジェクトを企画しています。広報誌やSNSを通じてみなさまにお伝えいたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

法人本部次長／片山淳一



相談支援事業所アウルが開所から丸3年を迎えました。ひとえにご信頼いただいているご利用者さまやそのご家族、一緒にご支援いただいている事業所さまの支えのおかげだと痛感しております。コロナ禍での開所ではありましたが、現在550名超の方にご相談いただいております。2022年2月には、南区江越に相談支援事業所アウルサテライトを開所いたしました。これまでより熊本市内の幅広い地域やお子さま方のニーズへお応えが可能となりました。

現在利用者の割合は、大人の相談が24%、お子さんの相談が76%となっています。お子さんの中でも医療的ケア児と言われるお子さんが9%を占めています。2021年9月に医療的ケア児支援法が施行され、

医療的ケア児の支援が国や地方自治体の責務と明文化され、これまで法の狭間で支援を受けられなかった医療的なケアを必要とするお子さん方も支援の対象となりました。今後新たな取り組みや社会資源が生まれるよう微力を尽くしたいと思います。

2022年10月には熊本大学病院小児在宅医療センター主催の、医療的ケア児相談支援懇話会に参加させていただきました。小篠先生による講話を聴かせていただき、後半はアウル管理者の片山が登壇し、グループ協議を行いました。サービス提供事業所や相談支援事業所でカラーや困りごとなどが異なり、一緒に話をして共感する部分や新たな発見があり、気持ちも新たに相談支援に取り組む糧となりました。



相談支援事業所アウルでは、お子さんの、遊ぶ楽しみやお友だちとの関わりや学ぶ機会が失われないように、就園・就学支援に積極的に取り組んでいます。保育・教育機関への事前相談を始め、幼稚園・保育園、学校等への見学同行、入園・入学に際しての支援会議の開催等を行っています。お子さんやご家族が安心できるよう、お子さんと園・学校との架け橋になれるように尽力していきます。

多機関の方々との繋がりがやご縁を大切に、おひとりおひとりのニーズやライフステージに合ったご支援が出来るように、相談支援専門員個々の強みを生かしながら、チームで一致団結となり相談支援に取り組んでいく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

相談支援専門員／秋成泉帆



各施設への
お問い合わせ



訪問看護ステーション コリブリ
〒860-0834
熊本市南区江越1-10-18-102
TEL.096-234-7580



相談支援事業所 アウルサテライト
〒860-0834
熊本市南区江越1-10-18-102
TEL.096-234-7585

かんたんレシピ



鮭のアーモンド焼き

材料 (2人分)	鮭 …………… 2切	付け 合せ	・パプリカ(赤)
	塩、こしょう …………… 少々		・アスパラガス
	マヨネーズ …………… 小さじ2		・塩
	アーモンドスライス …… 30g		・オリーブオイル

- 作り方**
- ①鮭に塩・コショウを振る。
 - ②鮭の上の面にマヨネーズを塗ってアーモンドスライスをまぶす。
 - ③パプリカ、アスパラガスを食べやすい大きさに切る。
 - ④180℃に温めたオーブンで②を15～20分程度焼く。
※アーモンドがきつね色になる程度
 - ⑤付け合せ用のパプリカとアスパラは塩を振り、オリーブオイルをかけて一緒に焼く。

POINT

鮭に含まれるアスタキサンチンはカロテノイドの一種で、抗酸化作用があり、細胞の酸化を抑えるため、老化防止やがん、動脈硬化を予防する効果があります。また、ビタミンDも豊富に含まれ、カルシウムの吸収を促したり、筋力低下の予防や認知機能低下の予防効果もあるとされています。鮭以外の魚でも簡単にアーモンド焼きを作ることができます。是非、食感や香りを楽しんでみてください。

編集後記



表紙の写真ではデイケアメンバーの皆さんと今年の干支をイメージして作成しました。生活様式が大きく変わり、これまで感じていた人との関わりも変化していきました。ネガティブな面ばかりがフォーカスされていますが、新たなつながり方も増えたように感じています。当院では訪問看護ステーション・相談支援事業所サテライトの開設を通して、新たなつながりを育んでいます。次回は新たな当法人のSDGsの取り組みを中心にお届けできるよう広報委員一同準備してまいります。

STAFF MESSAGE

地域生活支援課 課長／藤屋光太郎

「みえないものを 感じられるつながり」

この数年で生活様式の変容を求められることが増え、良いことも、それ以外のことも新たな経験の重なる日々です。地域生活支援課では変わらずに続けていることとして“かわりつづけてつながる”ことを患者さま、ご家族、関係機関への対応の中で大切にしています。

精神症状を抱える状況下では思うようにご自身の気持ちが伝えられない場面や意図せず内容がネガティブに伝わることもあります。そうした中で、少しずつ他者と関わるのが億劫に感じられ、気力や自信を失くし、気付かないうちに孤立していたということも少なくありません。

昨今は抱える症状と人との距離感覚の影響がより色濃くなっているように感じています。孤立するばかりが問題ではありませんが、孤立は幅広い年齢

層の中で起こりうるものと考えます。今は以前に増して、つながりつづけることの難しさを痛感する場面が増えました。表情が読み辛く、直接お会いできないことやご自宅に伺うことも制限される中、相互に安心安全を感じられる方法を課内で共有・考える時間をこれまで以上に意識してとるようにしています。これからも些細なきっかけを通して、みえずとも安心やつながりを感じていただけるような縁を育んでいきます。

孤独を強く感じる世界になっていますが、人は決して1人ではありません。周りを見渡してください。必ず味方になってくれる人がいます。その1人に私達がなれればと考えています。1人で悩む必要はありません。人と人とのつながりを感じながら、苦しいことも、辛いことも一緒に乗り越えていきましょう。

「外来看護師が 新しく変わりました」

外来処置室

新たに外来担当となりました。外来では、主に外来患者様の受診予約や相談対応、点滴や採血などの処置、ワクチン接種などの幅広い業務を行っています。

患者様が安心して治療を行えるよう寄り添い、小さな変化にも気づくことが出来るような、来院や相談がしやすい環境作りを目指しています。

また、上記の業務に関わらず、医師と患者の橋渡しの役割、入院される患者様に関する他部署との情報共有や連携など、病院全体の状況把握が求められます。看護の専門性に限らず、他領域の知識も幅広く習得し、患者様と病院を「つなぐ」役割を担っていかれたらと感じております。

まずは患者様に自分たちの顔や名前を覚えてもらい、“親しみやすく、開けた外来”を目指していきます。わからないこと、心配なことなどいつでも気軽に声をかけいただければと思います。

